

平成 30 年度 専門研修会 (医療部企画)

生涯教育実務研修 23-103

① COPD を考える～病態からマネジメントまで～

講師 東北大学病院 臨床研究推進センター

特任教授 奈良 正之 氏

② 心不全の病態と治療,管理栄養士の役割

講師 仙台循環器病センター

診療部長 総合連携室室長 藤井 真也 氏

平成 30 年 12 月 1 日 仙台市青葉区支倉町の宮城県産業建設会館 6 階において専門研修会が開催され、65 名の方に参加をいただきました。

初めに、奈良正之氏より「COPD を考える」をテーマに、呼吸器の構造、特に肺の機能について COPD の病態を中心に講話がありました。日本における COPD で治療を受けている患者数は 22.3 万人(厚生労働省統計 2005 年)に対し、実際の患者数は 500 万人以上と推定されています。日本では COPD の原因はほぼ 100% 煙草が原因と言われていますが、パキスタンなどの後進国ではたき火で料理を行うため、調理を担当している中年女性に発症が多いことなどのトピックスをまじえ、最新の話題を含めてお話いただきました。参加者からは、改めて病態をしっかりと学べてよかった、栄養指導の際に役立たいなどの意見がありました。



次に、藤井真也氏より、心不全の病態と治療について心不全の評価や重症度分類、治療薬、リハビリテーションや患者教育などについて学ぶことができました。心不全で入院する患者のうち、1 年後には心不全再増悪で約 3 割が再入院しますが、その主な要因は治療に対するアドヒアランスの低下であり、ガイドラインに則した治療だけでなく患者さんの希望を尊重する治療選択を大切にする必要があることがわかりました。管理栄養士は心不全治療チームの一因として、患者教育・支援を行うことの重要性を改めて実感しました。参加者からは、心不全には低栄養のリスクもあることがわかった、リハ栄養の視点から栄養管理を積極的に行っていきたいなどの意見がありました。

(文責 五十嵐 祐子)

